

May, 2020

Gender equality & Poverty reduction

Vol. 9

ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター



Cover Photo: JICA / Atsushi Shibuya

CONTENTS

-
1. 巻頭メッセージ：ガバナンス・平和構築部長 中村俊之
 2. Coronavirus: I'm in lockdown with my abuser
 3. ブータンからの報告：女性と子どもの視点に立った新型コロナウイルス対策
 4. ジェンダー平等の潮流：世銀ジェンダーグループシニアディレクター講演会
 5. オンラインセミナー報告：①農業・保健分野のイノベティブな金融包摂アプローチ
②ホンジュラス金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト
 6. 案件紹介：アフガニスタン女性警察官向けワークショップの実施
 7. 書籍紹介：①『あっ！そうなんだ！性と生』、②『私たちには言葉が必要だ フェミニストは黙らない』

巻頭メッセージ ～コロナに思うこと～

前部署でお世話になったある大学の名誉教授に異動のご挨拶メールを送付したところ、思いがけずとてもご丁寧な返信をいただきました。そのメールの中で先生が「私は87年の生涯の中、一夜にして社会がひっくり返る経験を2度持ちました。第一回は12歳のとき、終戦でした。そして第2回は今年のコロナです。（中略）終戦にしてもコロナにしても、その後の社会、また人の心は驚くほど変わります。今こそ、“次は何か？”に向き合うときと思っています。」とお書きになっている部分がとても印象に残りました。

今、私たちは大きな歴史の転換点に立たされているのかも知れません。本当に社会や人の心が変わるのか、その答えは持ち合わせていませんが、JICAでも非常事態宣言を受けて、仕事の仕方を劇的に変えることを余儀なくされていますし、IT化によって物理的に集まらなければならないことと、そうでないことの峻別が進み、我々の考え方や行動様式が大きく変わっていくのかも知れません。一方、コロナに起因するマイナスの側面も顕在化しつつあり、報道によれば日本で、そして、世界で、親の職業や住む場所、人種によっていわれのない差別が起こったり、ドメスティック・バイオレンス（DV）も増加傾向にあるといわれています。

変化には必ず痛みが伴い、その痛みは常に社会的弱者を直撃します。たとえコロナ下そしてその後の世界で、人の考えや心が変わるとしても、変わらないもの、変えてはいけないものを胸に刻み、国際協力に携わるものとして業務に従事したいと、思いを新たにしています。

（ガバナンス・平和構築部長 中村 俊之）

“Coronavirus: I'm in lockdown with my abuser”

「コロナウイルスによって、私は虐待者の囚われの身」。衝撃的な見出しですが、ドメスティック・バイオレンス（DV）について警鐘をならす3月末の [BBC ニュース記事](#) のタイトルです。COVID-19 が拡大する中、ジェンダーに基づく暴力（SGBV: Sexual and Gender Based Violence）が全世界で増加しています。SGBV は DV やセクシャルハラスメント・搾取、レイプ（パートナー間含む）などを含みますが、外出禁止の措置によって、各国で SGBV の発生報告件数が 25%～50% 増加（フランスで 30%、シンガポールで 33%）。なお悪いことに、外出禁止によって、被害者は加害者の監視下から逃げ場がなく、外への助けを求められないケースが急激に増えています。行政や民間機関による支援業務の制約、シェルターの閉鎖等と相まって、SGBV の犠牲者はかつてない厳しいリスクに直面、保護者から子への虐待も同様です。

パンデミック、災害発生、紛争といった危機下においては、脆弱層が晒されるリスクが増大し、社会が元来抱えているジェンダー格差の問題や、最貧困層が抱える問題が顕在化します。日本でも、阪神淡路大震災や東北大震災といった大規模災害時、避難所内や支援者による性暴力が発生していながら、適切に対処できなかった経験があります。[内閣府](#) は市民団体や有識者の協力を得て、各種ガイドラインをまとめていますが、失敗の要因として、「様々な意思決定過程への女性の参画が十分に確保されず、女性と男性のニーズの違いが配慮されない」ことを指摘しています¹。

JICA はこれからコロナウイルスの影響下において、また、この克服のための支援をしていきます。その際、どんな分野であっても、計画や実施において女兒・女性の声を聴き、ジェンダーの視点にたった取組をすること、これをせずにして、「誰一人取り残さない」は実現できないと肝に銘じ、取り組む必要があるのではない

¹ [「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～（案）」](#)（4月28日パブコメ募集終了）抜粋。

でしょうか。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室長 亀井 温子)

ブータンからの報告：女性と子どもの視点に立った新型コロナウイルス対策

JICA は、2016 年度よりブータンにて、女性と子ども国家委員会（NCWC）をカウンターパートに、ジェンダー主流化及び子どもの保護に関わる政府職員の能力強化に取り組んでいます²。2020 年 3 月、ブータン事務所と NCWC は、COVID-19 影響下の社会で貢献できることがないかを協議し、女性と子どもの視点に立った新型コロナウイルス対策を実施しました。

1. 災害時などの緊急事態においては配偶者間の DV を含む家庭内暴力のリスクが高まること、東日本大震災時の経験等からわかっているため³、出来るだけ早い段階から注意喚起をする必要があると判断し、[DV 防止啓発ムービー](#)を国営放送で放映しました。国営放送局との交渉やメッセージの作成などの準備を急ピッチで進め、アイデア着想からわずか数日で実際の放映にこぎつけました。結果、5 日間にわたり、再放送を含め 10 回以上全国放送されました。

 <p>Suffering in Silence Domestic Violence in Bhutan</p> <p>Kunzang Lhamu Director NCWC</p>	<p>Raising Awareness on Domestic Violence in the time of Emergency</p> <p>International experiences suggest that during the time of emergency such as natural disasters, prevalence of domestic violence and gender-based violence tend to rise.</p> <p>Therefore, NCWC together with JICA and ADB, would like to urge the public to be aware of the heightened risk of domestic violence with the current situation of widespread anxieties over COVID-19.</p>  <p>Japan Fund for Poverty Reduction</p>
<p>啓発ムービーのなかでは、NCWC のダイレクターもメッセージを発信。</p>	<p>ムービー冒頭では NCWC, JICA, ADB の合同メッセージを現地語であるゾンカ語のナレーションとともに放映（写真はメッセージの一部）。</p>

2. ブータン政府は子どもを持つ女性が働きやすい環境整備の一環として、政府関係機関に託児所を設置しており、NCWC がその管理を担っています。今回、託児所の状況を調査したところ、衛生に係る多くの備品が不足していることがわかったため、寝具や洗濯機、掃除機などの衛生状況の改善に役立つ資機材を供与しました。また、託児所や家庭において適切な感染症予防対策が習慣づくよう、手洗いの励行や新型コロナウイルスの基礎知識、予防方法等についての 4 種類の啓発ポスターを掲示用及び配布用に印刷しました。

² 「ジェンダー主流化および女性のエンパワメントのための能力強化プロジェクト」（2016～2018 年度）、「ジェンダー主流化、女性のエンパワメント及び子どもの福祉と権利」（国別研修）（2019～2021 年度）。

³ IFRC (2015) *Unseen, unheard: Gender-based violence in disasters, Global Study*、東日本大震災女性支援ネットワーク(2013)「東日本大震災『災害・復興時における女性と子どもへの暴力』に関する調査報告書

<p>託児所に供与した寝具や掃除機など。</p>	<p>資材の納品に立ち会った JICA ブータン事務所 及び NCWC 関係者</p>

これらの支援はどれも金額にすると少額なものでしたが、NCWC がこのような対策を実施したプロセスに大きな価値があったという実感があります。政府として緊急対応に追われるなか、すぐにジェンダーや子どもの保護の視点にたった具体的なアクションを起こすことは困難です。そのような状況において、いち早く対策を検討し、限られた時間の中で迅速にアイデアを実行に移した経験が、NCWC の能力強化につながると確信しています。

実際に、NCWC によるスピーディーかつ機転の効いたアクションが継続して実行されています。世界共通の傾向として、家庭内暴力の被害者と加害者が同じ空間で過ごす時間が長くなっていることから助けを求めにくくなっており、ヘルプラインへの電話件数が減って、SMS や E メールで助けを求めるケースが増えているとの報告があります。NCWC は新聞を通じてこのようなリスクの存在を周知するとともに、専用ヘルプラインには E メールでの相談受付のオプションを新設しました。

JICA ブータン事務所と NCWC は、今回の支援を踏まえた次なる支援策を練っています。今回の新型コロナウイルス対策において、女性と子どもの保護においても成功経験が蓄積される機会となるよう、プロセスを大事にしながらより良い支援を実現していきます。

(ブータン事務所 企画調査員 小熊 千里)

ジェンダー平等の潮流：世界銀行ジェンダーグループ シニアディレクター カレン・グロウン氏講演会

世界銀行ジェンダーグループ・シニアディレクターのカレングロウン氏の来日の機会を捉えて、2月3日に [世銀と JICA 研究所の共催セミナー](#) が開催されました。また、2月4日には JICA 内部向けセミナーを実施しました。

世界銀行グループのジェンダー戦略は4つの優先課題を設定しています①保健・教育分野への投資を通じた人的資本の強化、②雇用促進に向けた障壁の撤廃、③女性の資産保有およびコントロールに関する障壁の撤廃、④女性の発言力と能力の向上と社会規範の変革に向けた男性や男児の巻き込み)。世界銀行では、解消すべき男女間の格差・ギャップに重点を置き、ギャップを縮小し障壁を撤廃するための実践的な取り組みをプロジェクト計画に含め、結果を具体的な指標に基づきモニタリングをすることを目指しています。例えば、女性のモビリティと安全性を高める公共交通整備に加えて、DPL(開発政策借款)にて女性の運輸交通セクターの雇用を妨げている労働法の改正を行う、女性が企業主の中小企業を対象として E-コマースの活用や金融アクセスを促進するとともに規制を改正する、といった形でエコシステム全体に働きかけることの重要性が強調されました。



共催セミナーの様子

2019年6月に採択された「質の高いインフラ投資に関する G20 原則」では、インフラ投資により創出される雇用への平等なアクセス、また、創出される機会を通じて女性のエンパワメントを促進することの必要性が確認されました。JICA は世界銀行とのハイレベル対話において、協調融資案件におけるジェンダーアセスメント、好事例の発信などを協働で行っていくことを合意しています。今後、関連部署のご協力を受けて世銀との協働を促進していきます。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 横田 千映子)

**オンライン
セミナー報告①**

～小規模農家のお金のやりくりの謎を解く！～

『農業及び保健分野におけるイノベティブな金融包摂アプローチに係る研究』

貧困層や小規模農家の人々は、日々どのようにお金のやりくりを行い、どのように生計や生活のニーズに対応しているのか。開発援助の実務者である私たちは、その実態をきちんと理解したうえで有効なソリューションを提供できているのでしょうか？ 貧しい人たちの行動や将来の希望を、外部者の視点から推測して仮説のもとに事業を行っている、ということはないのでしょうか？ また、プロジェクトのセクターの範囲に限った視点で、小規模農家の生計や生活を捉えている、ということはないのでしょうか？

本プロジェクト研究では、小規模農家セグメントを対象として、世帯の生計（農業）および生活（保健・教育等）のお金のやりくりの実態および金融ニーズを明らかにしました。また、商業銀行、マイクロファイナンス機関やフィンテック等による多様な金融サービスの提供状況をどういった視点で確認をすべきかを示しました。それらを踏まえて、個別セクターの案件計画段階において活用可能な金融包摂の視点を統合した調査ツールをガイドラインとして取りまとめました。

ミャンマーおよびガーナの現地調査では、小規模農家や農業インプット業者への聞き取りから、仮想のキャッシュフローを「見える化」し、特定のセグメントの特徴を明らかにしました（下図参照）。小規模農家は農業に限らない多様な生計手段を有しており、インフォーマルビジネスや送金による収入と農業収入は「一つの財布」にまとめられ、医療費・災害対応・冠婚葬祭・教育費などの大きな支出に圧迫されると、生産活動（農業）に回すお金が不足してしまうという実態があります。また、UHC（ユニバーサルヘルスカバレッジ）が提供されている国であっても、小規模農家が直面する医療コストは交通費、薬代、労働機会損失の補填など幅広く、リスクに非常に脆弱です。貯蓄、融資等の金融サービスのニーズは高く、小規模農家の金融リテラシーを高め、金融サービスの活用を進めることの重要性が明らかとなりました。

ペルソナ仮想キャッシュフロー（1月～12月）



収入源は天水農業のコメとピーナツ（合計7エーカー）の売上と古いトライシクルの賃貸料が主体となる。このため家計の支出に対して収入の絶対額が低く、また基本的に収入の多くが8月と11月に発生する。月々の収支も累積の手持ち現金もマイナスの月が続く。



親戚からお金を借りて新しいトライシクルを購入し、トライシクル・ビジネスの収入が発生した。このため、年間を通した収入がある。屋根の修繕費や借入金返済のために月々の収支および累積手持ち現金が一時的に赤字になるが、年間の収支は黒字となる。

途上国では早いスピードでイノベティブな金融サービスが開発され、多様な機関により提供されています。ミャンマーでは、スマホのアプリを通じて営農用にカスタマイズした金融商品と営農アドバイスを合わせて提供するサービスが社会的企業により提供されています。ガーナでは、NGO が保健分野のプロジェクトでコミュニティのグループ預金・融資と金融教育を合わせた活動を行っていたり、通信会社と保険会社が連携をしてモバイルマネーを活用したマイクロ保険の提供をしています。

農業や保健、それ以外のセクターにおいても、「受益者（貧困層）の視点」でお金のやりくりを含めた分析をすること、そして公的機関のみならず民間による提供されているソリューションを組み合わせることが重要です。プロ研報告書では、プロジェクトを形成する際にこれらを確認するためのツールを提供していますので、ぜひ活用ください！（報告書は近日図書館公開予定。JICA 内部関係者は[こちら](#)からご覧ください。）



ミャンマー現地調査の様子

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 横田 千映子)

オンライン
セミナー報告②

～現金給付からの脱却を目指す：

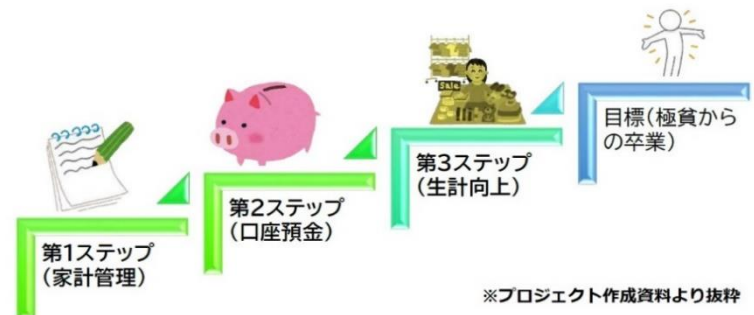
ホンジュラスにおける新しい貧困削減プログラム～

金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト

4月24日、ジェンダー平等・貧困削減推進室は、JICA 研究所との共催で、Zoom ウェビナーによるホンジュラス「金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト」(2015-2020) のオンライン成果発表セミナーを実施しました。

中米ホンジュラスでは、全世帯の 38% が最貧困状態にあり、貧困削減は最優先課題の一つです。政府は、1990 年代から最貧困世帯を対象とした条件付現金給付制度 (CCT: Conditional Cash Transfer) による支援を行ってきましたが、近年同国の貧困率の低下は十分ではありません。最貧困層の人々が現金給付を活用して極貧から脱却し、現金給付を受けずとも持続的に生活していけるようになるには、何が必要か。本プロジェクトでは、CCT 受給世帯が支援を受けることから「卒業」し、自ら生活改善・生計向上に取り組むことができるようになることを目指して、ホンジュラス版卒業モデルの実証と制度化に取り組んできました。

愛称 ACTIVO モデルと呼ばれるこの貧困削減モデルは、中央政府・地方自治体・コミュニティ・民間金融機関等が従来個別に行ってきた最貧困層向けのサービスを組み合わせ、CCT 受給世帯を対象に、①家計管理、②貯蓄(預金)習慣および金融アクセス、③生計向上支援のステップを、長期間のコーチングと組み合わせながら、統合的にかつ段階的に提供するものです。ホンジュラス政府は ACTIVO モデルを同国の CCT からの卒業モデルとして 2019 年 9 月に承認し、プロジェクト期間終了後に予定されていた同モデルの全国展開も、現時点で既に全国 88 市で展開されています。(プロジェクトの対象市は 5 市)



オンラインセミナーでは、本プロジェクトを実施した株式会社かいはつマネジメント・コンサルティングの塚本総括をはじめとする 4 名の専門家より、下記のような取組や成果について報告されました。

- ・ACTIVO モデル適用世帯では、家計管理や銀行口座開設/貯蓄が進み、小規模融資を受けて生業活動も活発化した等の変化が見られた
- ・平均して 1 世帯あたり約 4000 円の投入で世帯収入が約 42000 円増という高いコストパフォーマンス効果
- ・ACTIVO モデルの開発にあたり、緊急時に脆弱である貧困層の特徴を踏まえモデルの持続性を確保するための工夫を行った、また、モデルの効果を実証するために、対象世帯と非対象世帯を比較したランダム化比較試験によるインパクト評価を実施し、関係者にエビデンスを示しながら随時モデルの内容を改善した
- ・民間金融機関による貧困層向けの商品開発支援も積極的に行い、実際に 12 の商品が開発された
- ・マチズモと呼ばれる男性優位主義の文化の下、自由に外出できない女性が ACTIVO モデルのプロセスに参加することで精神的・経済的なエンパワメントが見られた

合計 267 名の参加者からは、オンラインで積極的にご意見や質問を頂き、緊急事態宣言下におけるこのような形でのセミナーの実施について総じて好意的な評価を頂きました。当室としてもオンラインのみのセミナー開催は新しい試みではありましたが、ジェンダーや貧困削減という横断的かつ重要な 이슈を主流化していくため、内外への積極的な発信に取り組んでいきたいと考えています。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 宇佐美 茉莉)

案件紹介：アフガニスタン女性警察官向けのワークショップ開催

JICA は 2020 年 1 月 20 日から 24 日にかけて、トルコのシバスにあるシバス警察訓練学校において、アフガニスタン女性警察官向けのワークショップを開催しました。

UNDP（国連開発計画）が日本政府等による拠出金を活用し、シバス警察訓練学校にて毎年、アフガニスタンから女性警察官を招いて約半年間の研修を提供しています（年にもよりますが、主に新人警察官向けです）。JICA はこの研修期間の一部を受け持ち、2014 年度以降、毎年ワークショップを開催してきました。そのテーマは「女性に対する暴力への対応能力向上」。アフガニスタンでは、DV や、性的暴力、セクシャル・ハラスメント、幼児婚、人身取引、名誉殺人などのジェンダーに基づく暴力（GBV）が深刻で、多くの女性が被害を受けています。その女性たちが被害を相談したり、適切な保護を受けるにあたってのカギとなる役割が期待されているのが女性警察官です。そのため、女性警察官が適切に被害女性に寄り添い、対応できるようになることが極めて重要です。JICA のワークショップでは、日本で被害者支援に携わる専門家とともに、日本の経験や知見を踏まえつつ、被害者への支援のあり方や、職場でのセクシャル・ハラスメントへの対応の仕方などを伝えています。

今回は 250 名の新人女性警察官を対象にワークショップを実施しました（ちなみに 2014 年度からの累計人数は、およそ 1,500 名に達します）。私自身、このワークショップの実施を担当するのは 3 回目になりますが、毎回、彼女たちの「よりよい社会を作りたい」という強い思いに圧倒されています。彼女たちの思い、そして行動がきっとよりよいアフガニスタンを作っていくのだと信じています。

※ワークショップの詳細については、ぜひこちらをご覧ください。

- [「Mundi2019 年 3 月号 暴力や差別の被害者を支える警察官になるために」](#)
- [「アフガニスタンで警察官になった女性たち」](#)

（ガバナンス・平和構築部 ガバナンスグループ 法・司法チーム 三好 恭平）



コラム①：書籍紹介『あっ！そうなんだ！性と生』



『あっ！そうなんだ！性と生』 浅井春夫ほか（編著）

出版社：エイデル研究所 初版発行日：2014/3/11

ISBN：978-4-87168-537-5

「赤ちゃんってどうやってできるの？」

「はずかしいことをされたの。わたし/ぼくがわるかったの？」

（コロナの死亡ニュース等を見て）「死ぬってどういうこと？」

コロナ自粛で時間を持て余した（？）子どもたちにこのように聞かれたら、上手く答える自信はありますか？そんな時にぜひ頼りにしてほしい絵本の紹介です。

この本は、幼児・小学生向けの「性教育」の本です。早すぎる！と驚かれるかもしれませんが、子どもたちは早晩、[ネットやスマホ](#)、[テレビ等を通して](#)性情報に接する機会に出会います。子どもを性犯罪の被害者にも加害者にもさせたくないという保護者のニーズに答え、北欧やオランダなどで幼少期から実施され[ユネスコにも推奨](#)されている「包括的性教育」に基づき作られました。生理学的な性や生殖の話に加え、人権、健康的な人間関係、対話・交渉スキル、(性)暴力やいじめ、生死、それぞれの「自分らしさ」・多様性の祝福など、性と生を尊重するために必要な様々な内容を網羅。冒頭の質問にもしっかり答えられます。(寝た子を起こすのでは……とご心配な方は[コチラ](#)を！)

まともな性教育を受けてこなかった大人世代には「刺激が強い」と思える描写もありますが、グー〇ル先生にもっと刺激的で非科学的・偏った情報を教えられる前に、大人向け解説も付いたこの絵本で、科学的で正しい知識を学ぶきっかけにしてみたいかたがでしょう。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 野口 孝子)

コラム②：書籍紹介『私たちにはことばが必要だ フェミニストは黙らない』



『私たちには言葉が必要だ フェミニストは黙らない』 イ・ミンギョン著

出版社：合同会社タバブックス 初版発行日：2018/12/13

ISBN：978-4-907053-27-7

本書は、「女性が男性と対等な扱いを受けられるようになるには、まだまだ課題が多い」もしくは「女性が社会で不公平な扱いを受けている」といった「今、性差別がある」ということを周囲の人に分かってもらおうとして苦戦したことがある方、その後で会話が泥沼化したことがある方、会話の途中で悲しくなったことがある方、ひるんでしまったことがある方に向けて書かれた本です。「それぞれの場所で悩んでいる友人たち、またその友人の友人たちを応援したくなりました。あなたの理解が足りないから答えにくいわけじゃない。会話の戦略さえ変えれば楽になれるのだと。」というエールと共に書かれています。

2016年にソウル・江南駅で起きた女性刺殺事件をきっかけに、韓国社会では女性への暴力、女性嫌悪、性差別について大きな議論が巻き起こりました。本書は、このような性差別の問題を語る際に、女性にこれ以上の苦痛や我慢を強いることを防ごうと書かれた本です。前半では、「差別は存在している」という事実を踏まえて、我彼のスタンス（フェミニストかセクシストか）を明確にした上で、他人の権利の侵害を理解しない人やセクシストに対する効果的な対応例や、性差別に関する会話の進め方についての助言を示し、後半は実践編として、具体的な会話法等を示しています。また、どんな言葉が当事者の口をふさぐのか、なぜ相手に聞く準備が無い場合に差別経験を話してもムダなのか、差別があるかないかを決めるのは誰なのか等、作者自身の経験に基づく助言や考察は非常に参考になります。

性差別がある現状、GBV や女性蔑視、性的マイノリティへの差別等について会話をする際のガイドとしていかがでしょうか。きっと充実した会話になると思います。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 京 由香)

ジェンダー/金融包摂案件、関連広報のリンク

・ TICAD7 サイドイベント「女性と少女が変えるアフリカの未来～ビジネスが変えるアフリカの未来～」報告書（日本語/English) **New!**

https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/related/ku57pq00002m0szu-att/20190827_01_01.pdf

・ 【3月8日は国際女性デー】安全な交通手段の整備で女性の社会参加を後押し **New!**

https://www.jica.go.jp/topics/2019/20200306_01.html

・ パプアニューギニア【JICA aims to promote gender-responsive teaching and learning in mathematics and science in PNG】

https://www.facebook.com/permalink.php?id=756578997714721&story_fbid=2435905059782098

・ アンゴラ【アンゴラ共和国：建設分野で輝く女性指導員】

<https://www.facebook.com/jicapr/posts/2250757948293673/>

・ カンボジア「女性の経済的エンパワーメントのためのジェンダー主流化プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/cambodia/023/index.html> **(ニュースレター更新しています)**

・ ベトナム「被害者支援及びカウンセリングのための人身取引対策ホットライン運営強化プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/047/index.html>

・ ミャンマー「人身取引被害者支援能力向上・協力促進プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/032/index.html>

・ パキスタン「シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善支援プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/pakistan/006/outline/index.html>

・ アルバニア「小規模農家金融包摂プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/albania/003/outline/index.html>

・ ホンジュラス「金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/honduras/005/index.html>

・ ベトナム「ジェンダーの視点に立った金融包摂促進支援プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/053/index.html>

終わりに

今号のニュースレターはいかがでしたでしょうか？

読者の皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。(連絡先：gpgge@jica.go.jp)

(編集：宇佐美 茉莉)

(デザイン：泉 貴広)